

リズム・コンビネーションを鍛えるための

# 演奏能力開発エクササイズ

ベース編

……

解説書

譜面・解説：アンソニー・ヴィッティ [Anthony Vitti]

浄書：山岡 博 (Hiroshi Yamaoka)

翻訳：サム・カワ (Sam Kawa)

DTP編集：ANTENNA

企画制作：株式会社リットーミュージック

無断複製・転載を禁じる

VWD-300

## 目次

はじめに	3
譜面に関して	3

### PART 1

#### ファンク・グルーヴ・リズム・コンビネーション

exercise 1: スペースのあるファンク・リズム・コンビネーション	4
exercise 2: 2パート・グルーヴ・リズム・コンビネーション	5
exercise 3: 7/4拍子オーガニック・グルーヴ・リズム・コンビネーション	6
exercise 4: 7/4拍子16分音符スウィング・フィール・リズム・コンビネーション	7
exercise 5: 5/4拍子ファンク/フュージョン・グルーヴ・リズム・コンビネーション	8
exercise 6: ストレート16分音符ファンク・リズム・コンビネーション	9
exercise 7: スラップ・グルーヴ・リズム・コンビネーション1	11
exercise 8: スラップ・グルーヴ・リズム・コンビネーション2	12
exercise 9: スラップ・グルーヴ・リズム・コンビネーション3	13
exercise 10: テーマ付きスラップ・グルーヴ・リズム・コンビネーション1	14
exercise 11: テーマ付きスラップ・グルーヴ・リズム・コンビネーション2	15
exercise 12: テーマ付きスラップ・グルーヴ・リズム・コンビネーション3	16

### PART 2

#### モータウン・グルーヴ・リズム・コンビネーション

exercise 13: 4分音符モータウン・リズム・コンビネーション	17
exercise 14: ベーシック・モータウン・リズム・コンビネーション	19
exercise 15: アップテンポ・モータウン・リズム・コンビネーション	20
exercise 16: 12/8拍子モータウン・リズム・コンビネーション	22
exercise 17: 音数の多いモータウン・リズム・コンビネーション	23

### PART 3

#### ブルース/ゴスペル・グルーヴ・リズム・コンビネーション

exercise 18: ブルース・シャッフル・リズム・コンビネーション	25
exercise 19: テキサス・ブルース・リズム・コンビネーション	27
exercise 20: ジャンプ・ブルース・リズム・コンビネーション	29
exercise 21: 12/8拍子デルタ・ブルース・リズム・コンビネーション	30
exercise 22: シカゴ・ブルース・リズム・コンビネーション	31
exercise 23: 12/8拍子ドライブ・シャッフル・リズム・コンビネーション	33
exercise 24: ロック・ブルース・シャッフル・リズム・コンビネーション	34
exercise 25: モダン・ゴスペル・リズム・コンビネーション	36
exercise 26: 9/8拍子ゴスペル・リズム・コンビネーション	38
exercise 27: ゴスペル・リバイバル・リズム・コンビネーション	40
exercise 28: 6/8拍子ゴスペル・リズム・コンビネーション	43

### PART 4

#### ラテン/レゲエ・グルーヴ・リズム・コンビネーション

exercise 29: ベーシック・トウンバオ/ソング・リズム・コンビネーション	45
exercise 30: グァラーチャ・リズム・コンビネーション	47
exercise 31: チャランガ・リズム・コンビネーション	48
exercise 32: ベーシック・レゲエ・リズム・コンビネーション	49
exercise 33: アップ・テンポ・レゲエ・リズム・コンビネーション	50
exercise 34: シンコペーション付きレゲエ・リズム・コンビネーション	51

### PART 5

#### ヒップホップ/ドラムベース・リズム・コンビネーション

exercise 35: ベーシック・ヒップホップ・リズム・コンビネーション	52
exercise 36: 2・4拍抜きヒップホップ・リズム・コンビネーション	53
exercise 37: 2小節パターン・ヒップホップ・リズム・コンビネーション	54
exercise 38: 2パート・ヒップホップ・リズム・コンビネーション1	55
exercise 39: 2パート・ヒップホップ・リズム・コンビネーション2	57
exercise 40: 2パート・ヒップホップ・リズム・コンビネーション3	59
exercise 41: ドラムベース・リズム・コンビネーション1	61
exercise 42: ドラムベース・リズム・コンビネーション2	62
exercise 43: ドラムベース・リズム・コンビネーション3	63

デモ演奏について	64
おわりに	64

## はじめに

「リズム・コンビネーションを鍛えるための演奏能力開発エクササイズ ベース編」によること!

このDVDでは、様々なスタイルにおけるベースとドラム間のリズム・コンビネーションについてお見せしていきます。異なる音楽スタイルを学ぶことが、あなたのベース・プレイに異なる側面をもたらしてくれます。リズムックなボキャブラリーを要求されるスタイルもあれば、スペースやメロディックなアイデアを効果的に使うことを問われるものもありますが、DVDを通してベースとドラム間のインターアクション(相互作用)の重要さがわかっていただけたらと思います。ベーシストとドラマーはお互いに敬意を表してサポートし合っていかなければなりません。両者の間のインターアクションは、例えばドラムのハイハット・パターンと共にプレイしたり、スネアの2・4拍のためにスペースを空けたりなど、非常に微妙なものであると言えます。よって、今回紹介するエクササイズを何度も聴き、聞こえてくるものをとらえるべく取り組んでみてください。練習は最初はゆっくりと、そして徐々にテンポを上げていってください。ベースとドラムがガッチリとかみ合って良いグルーヴが生み出された時の喜びは、何ものにも変えられません!

## 譜面に関して

本解説書に収録された譜面は、すべてインストラクターが自ら作成したオリジナル・スコアを使用しています。インストラクターの意向により、練習用の譜面として使いやすいよう、なるべくシンプルで見やすい形にしています。そのため、DVDにおける実際のインストラクターの演奏では、即興的なバリエーションや、譜面に表しにくい細かなニュアンスやアクセント・装飾、微妙なリズムの揺れなどが加えられている場合がありますので、その点はご了承ください。

TAB譜は5弦や6弦ベースをプレイする人にも使用できるようにしてあります(ちなみに、5弦ベースの場合のチューニングはB-E-A-D-G、6弦ベースの場合のチューニングはB-E-A-D-G-Cとなっています)。5弦ベースでプレイする場合は一番上の1弦を無視し、4弦ベース(E-A-D-G)でプレイする場合は1・6弦を抜かした真ん中の4本(TAB譜の左側に弦番号を印してあります)を見てプレイしてください。

TAB譜の6弦に音があるものは、5弦・6弦用のエクササイズですのでご了承ください。尚、インストラクターは、4弦ベースを5弦用ベースの弦(低い弦4本)に張り替えてプレイしています。

それ以外の変則チューニング(ドロップD)の場合は、各エクササイズの解説部分で記しています。

## PART 1

### ファンク・グルーヴ・リズム・コンビネーション

このパートでは、フィンガースタイルとスラップによる様々なファンク・グルーヴを紹介し、ここではベースラインの構造というものを強調してお見せしたいと思います。様々な拍子も出てきますし、時間をかけてゆっくりと取り組んでください。

ここでフォーカスすべきは、ベースとドラム間のインターアクションです。たくさんの複雑なリズム・コンビネーションをプレイしていますので、注意深く聴いてください。例えばスラップのグルーヴに関しては、あるテーマを元にして、そこから広げてテクニク的にさらに複雑でリズム的なベースラインを作り出しています。そういったアイデアを、いかに自然な形で広げていくかも皆さんにお見せしたいと思います。

## exercise 1

### スペースのあるファンク・リズム・コンビネーション

Exercise 1 is a bass line exercise in 7/8 time. The tempo is marked as ♩ = 78. The key signature has two flats (Bb). The exercise is divided into three sections, each with a 6-measure phrase. The first section has a 2-measure rest in the first measure. The second section has a 2-measure rest in the first measure. The third section has a 2-measure rest in the first measure. The chords and fingerings are as follows:

Section 1: Gbm7, Ab7, F7, Bb-7. Fingerings: 2, 2 4, 4 2, 1, 1, 1 3.

Section 2: Eb-7, Ab7, Dbm7, Bb-7, Gbm7, Ab7. Fingerings: 1, 1, 6 3, 4, 4 1, 1, 2, 2 4, 6 4.

Section 3: Cm7(b5), F7(b9), Bb-7, Eb-7, AbsusAb7, Dbm7. Fingerings: 3, 3, 2 2 3, 3, 1, 1, 1, 3 4, 4 4.

- このグルーヴでは、2・4拍目を空けてプレイしています。これによってスネア・ドラムにスペースを与えるわけです。
- ベースとドラムのインターアクションに注意してください。ドラムは音数の多いハイハットのリズムをプレイし、リピートした2回目ではスネア・パターンを変えています。これによってベースとドラムの間で異なるフィーリングが生み出されています。
- ベース音のない空白の部分は“グルーヴのポケット”(グルーヴのハマりどころ)をはっきりと示しています。
- ドラムが6小節目でいかにベースと共にベース・ドラムをプレイしているかにも注目してください。

## exercise 2

### 2パート・グルーヴ・リズム・コンビネーション

Exercise 2 is a two-part funk groove exercise in 8/8 time. The tempo is marked as ♩ = 82. The key signature has two flats (Bb). The exercise is divided into three sections, each with a 4-measure phrase. The first section has a 2-measure rest in the first measure. The second section has a 2-measure rest in the first measure. The third section has a 2-measure rest in the first measure. The chords and fingerings are as follows:

Section 1: G-7. Fingerings: 3 3 4 3 3 4 3, 6 3, 5 5, 3 3 4 3 3 4 3, 6 3, 5 5 3 3.

Section 2: Eb, D7, G-7, C7. Fingerings: 1 1 1 1, 1 3, 5 5, 3 3, 5 5, 5 5, 3 3, 1 3, 3, 3 3, 3 3, 5 5.

Section 3: Eb, D7, C-7, D7(#9). Fingerings: 6 6, 6 6, 6 6, 5 5, 5 5, 4 4, 3 3, 3 3, 5 5, 5 5, 5 3, 4 3, 6.

- このグルーヴは2つの異なる8小節フィールによってできていますので、AとBという2つのセクションのように考えてみてください。2つのセクションでのリズムの変化によって、全く異なるフィールが生み出せるはずですよ。
- Aセクションはシンコペーションも多く、16分音符を基本にしており、Bセクションは8分音符を基本にしています。Aセクションでベースが音数の多いプレイをしているときはドラムは8分音符をプレイしており、Bセクションでベースがシンプルな8分音符パターンをプレイしているときは16分音符パターンやハイハットをオープンさせたりしています。つまりドラムはベース・プレイに合わせているわけです。
- ここでは、8小節のフレーズをいかに1~2小節のグルーヴのように繰り返しプレイしているかに注目してください。
- ここではエフェクターとしてミュートロンを使っていますが、それを使用するしないではアタックやリリースの感覚が違ってきますので注意して下さい。



### exercise 3

#### 7/4拍子オーガニック・グルーヴ・リズム・コンビネーション

- このグルーヴは、エオリアン・スケールを元にしています。
- 4小節フレーズになっていますが、私はABACシステムと呼んでいます。A(1・3小節目)はヴァース(テーマ)、B(2小節目)はコーラス、C(4小節目)はブリッジのセクションとして曲の形式のように考えてみて下さい。ほとんどのグルーヴは同じやり方で組み立てており、BはAのバリエーション、Cはターンアラウンドとなっています。
- ベースは音数の多い8分音符ですので、ドラムはそれに合わせず非常にシンプルにプレイしており、スネアのリズムは一定に流れるベースラインの中で突き刺すような感じになっています。
- ここでは4弦ベースの弦を張り替え、チューニングをB-E-A-Dに下げてプレイしています。

### exercise 4

#### 7/4拍子16分音符スウィング・フィール・リズム・コンビネーション

- このグルーヴの構造はexercise 3と同じです。違いは16分音符フィールをベースにしている点です。
- ベースのグルーヴに合わせて、ドラムが16分音符のリズムを組み込んでいる点に注目してください。ベースがプレイしているスウィング感をドラムもグルーヴの中に取り入れていますし、ベースもスウィング感を生み出すためにハイハットの16分音符を聴いています。そしてベース・ドラムのタイミングも重要な要素となっています。



## exercise 5

### 5/4拍子ファンク／フュージョン・グルーヴ・リズム・コンビネーション

●変拍子ではありますが、前に紹介したABACという形でグルーヴを組み立てているのは同じです。ここでは2小節フレーズを元に8小節のフレーズにしています。1・2小節目は5・6小節目と同じですし、3・4小節目はテーマ(1・2小節目)のバリエーションです。7・8小節目はベースの高音域を使って8小節フレーズを締めくくるターンアラウンドをプレイしています。

●ベースに対し、ドラムはベース・ドラムで自然なアクセントを付けており、スネアで自由な感覚で変化を付けています。スネアの音の配置は、ベース・ドラムのリズムほどグルーヴを決定することにはならないこともあります。リズムックなインターアクションは複雑ですが、常にサポートしあっているのです。

●あらかじめ書かれたグルーヴから離れることによって、インプロヴィゼーションの余地もたくさん出てくるということも覚えておいてください。

## exercise 6

### ストレート16分音符ファンク・リズム・コンビネーション

●このグルーブは4小節フレーズになっています。最初の8小節はベーシックなグルーブで、後半の8小節ではそのベースラインを元にしたリズムなインプロヴィゼーションのようになっていますので、たくさんのバリエーションやインプロヴィゼーションが可能なのだと思います。ただし、それぞれの4小節フレーズにおける最初の2拍は、リズム的に一定になっています。

●スネアはほとんど2拍目を一定に叩いており、ハイハット・パターンをライド・パターンへと変化させています。これは特にソロの部分などでフィールを変えるときに使う典型的な方法です。

## exercise 7

### スラップ・グルーブ・リズム・コンビネーション1

♩ =  $\text{♩}$   $\flat\flat$   
4th String = D

●このグルーブのカギはドラムの2小節パターンの1小節目で、ベースと一緒にプレイされる最初のスネア以外は、スネアを単独で聴かせるという点です。それによって、いかにドラムがベースを良く聴いて、ベースのリズムと組み合わさっているかがわかります。また、譜面上での音符の長さはあっても、私はプレイするときは常にドラムにリアクションするようにしています。

●ここでは、4弦ベースの4弦をEからDに下げています。

## exercise 8

### スラップ・グローヴ・リズム・コンビネーション2

$\text{♩} = \flat$  4th String = D

The score for Exercise 8 consists of four systems. Each system includes a bass clef staff with a key signature of one flat and a 4/4 time signature. The first system is marked with a tempo of quarter note = flat. The 4th string is tuned to D. The notation includes slapping techniques indicated by 'P' above notes. The TAB part shows fingerings for the 4th string: 0 0 5 5 3 3 5, 7 3 0 0 3 3 0 0 5 5, 5 7 3 0 0 3 5, and 14 10 12 10 11 12 0 0 5.

●このバージョンでは、リズム的な複雑さを加えており、テクニック的にも親指による通常のサムピングに加えてポッピング(またはタッピング。譜面上の記号P部分)のテクニックで変化を付けています。

●このグローヴは音数も多いですが、スネアのためのスペースを空けることによってグローヴのディープなポケット(ハマリどころ)を生み出しています。ドラムは2・4拍目でシンプルなスネア・パターンをプレイしていますが、最後の小節では私のフレーズを取り入れています。

●ここでは、4弦ベースの4弦をEからDに下げています。

## exercise 9

### スラップ・グローヴ・リズム・コンビネーション3

$\text{♩} = \flat$  4th String = D

The score for Exercise 9 consists of four systems. Each system includes a bass clef staff with a key signature of one flat and a 4/4 time signature. The first system is marked with a tempo of quarter note = flat. The 4th string is tuned to D. The notation includes slapping techniques indicated by 'P' above notes. The TAB part shows fingerings for the 4th string: 0 0 5 5 3 3 5, 10 10 3 0 3 0 3 4 4 5 5, 5 3 5 0 2 3 3 0, and 5 3 5 6 5 3 5 5 3 5 0 2 4 3 5.

●ここでも私はスネアのためのスペースを空けていますが、このグローヴではさらにテクニック的な面が要求されます。2小節目と6小節目の頭ではダブル・ストップのテクニック、そしてポッピングとハンマリング・オン(譜面上の記号HO部分)による難しいリズム・コンビネーションも加えています。

●ドラムが2・4拍目のスネアの間で微妙なアクセントをスネアで加えている点にも注目してください。ここでも、かなりディープなグローヴのポケットが生み出されています。ベースがさらにフューチャーされていけばドラムはよりサポートする役割に回り、またその逆もあるというわけです。

●ここでは、4弦ベースの4弦をEからDに下げています。



## exercise 10

### テーマ付きスラップ・グルーヴ・リズム・コンビネーション1

●このグルーヴにはベーシックなテーマがありますが、曲の中でのベーシック・グルーヴにもなり得るものにしてあるのがポイントです。これに続くexercise 11や12では、このテーマをテクニク的にメロディックに、そして自然に作っていきます。

●ここでは1拍目はプレイしていませんが、スペースを空けることによってベース・ドラムにリアクションしています。ドラムは1・3拍めで4分音符の強いベース・ドラムをプレイしています。

## exercise 11

### テーマ付きスラップ・グルーヴ・リズム・コンビネーション2

●exercise 10と同じテーマですが、ゴースト・ノーツ(譜面上の記号x部分)を加えており、ポッピングのコンビネーションも変化させています。これはかなり難しいテクニックであると同時にベースラインにとっては非常に興味深いものでもあります。ポッピングのコンビネーションは非常に難しいので、まずはゆっくりとしたテンポから始めてください。ここでは少しテンポも早めてプレイしており、ドラムは4拍目のみでスネアを強くヒットさせることによって異なるフィールを生み出していますし、さらにリズム的なベース・ドラムも加えています。

## exercise 12

### テーマ付きスラップ・グルーヴ・リズム・コンビネーション3

Exercise 12 is a bass line exercise in 4/4 time with a tempo of 92. It features a complex rhythmic pattern of slapping and triplets. The score is presented in four systems, each with a bass staff and a corresponding TAB staff. The key signature is one sharp (F#). The first system includes a triplet of eighth notes on the bass line and a corresponding triplet in the TAB. The second system continues the pattern with more slapping and triplet figures. The third system introduces a triplet of eighth notes on the bass line and a corresponding triplet in the TAB. The fourth system concludes the exercise with a final triplet and a double bar line.

●これはテクニ的に非常に難しいバージョンのグルーヴとなっています。特にほとんどの小節の1拍目にあるダブル・サムピング(親指のアップ&ダウンによるサムピング)に注意してください。これは非常に微妙なテクニックでもありますし、ドラムがこのトリプレット(三連符)・フィールをハイハットで取り入れているのがわかります。さらにドラムは複雑なスネアも加えています。これは音数の多いグルーヴにおいても、スペースとディープなポケットはあることを示す例でもあります。そのカギはリズムとタイムに細心の注意を払うことです。

●まずは1小節ずつを、とてもゆっくりとしたテンポで練習してみましょう。

## PART 2

### モータウン・グルーヴ・リズム・コンビネーション

このパートでは、クラシックなモータウンのビートを紹介します。偉大なベーシスト、ジェイムズ・ジェマーソンは60~70年代におけるモータウンのセッションでのクラシックなベースラインによって知られています。彼の生み出したフィールは、現代のベース・プレイヤーにとってスタンダードなレパートリーともなっています。ジェマーソンのベースラインは、特にR&Bのプレイにとって最も大きな影響を与えてきました。私が知りうる偉大なベーシスト達は皆ジェマーソンから多大な影響を受けていると言っても過言ではありません。

## exercise 13

### 4分音符モータウン・リズム・コンビネーション

Exercise 13 is a bass line exercise in 4/4 time with a tempo of 116. It features a classic Motown rhythm with a steady 4/4 beat. The score is presented in four systems, each with a bass staff and a corresponding TAB staff. The key signature is three flats (Bb). The first system includes a 4/4 Motown rhythm and a corresponding TAB. The second system continues the pattern with more slapping and triplet figures. The third system introduces a triplet of eighth notes on the bass line and a corresponding triplet in the TAB. The fourth system concludes the exercise with a final triplet and a double bar line.

## exercise 14

### ベーシック・モータウン・リズム・コンビネーション

●モータウン・レコードのベーシストであったジェイムズ・ジェマーソンは、ファンク・ブラザーズとして知られるリズム・セクションと共にプレイしました。彼はクラシックなモータウンの曲のほとんどでベースをプレイし、クレジットされています。彼が生み出したものは、プロのベーシストであれば知らなくてはならないクラシックで重要なモータウンのフィールとなっています。

●ここでプレイしているのは、私がルート5thと呼んでいるものです。つまりリズム的に音はたくさんあっても音程・音階はわずかで、コードのルートと5度でグルーヴの基礎を生み出しています。これをスネアの4分音符のプレイと共に組み合わせれば、クラシックなモータウン・フィールの一つができあがります。

●これは最もシンプルなモータウン・フィールの一つです。ベースはペンタトニック・スケールの1・5・6度をプレイしているだけです。単なる繰り返しに見えますが、他のメンバー達のためにムードやフィーリングを生み出しているということを忘れないでください。一定のグルーヴを維持したり、リズム的にメロディ的に変化を付けないということも非常に重要なことです。

●ドラムはスネアでクラシックな4分音符をプレイしていますし、ギターは2・4拍目でコードをプレイしています。



# exercise 15

## アップテンポ・モータウン・リズム・コンビネーション

♩ = 200 B♭

1  
2  
3  
4

T  
A  
B

B♭ E♭

D- G- E♭ F7

Fine

1  
2  
3  
4

5 5 5 3 3 3 3 1 1 1 3 3 3 1 1

D-

1  
2  
3  
4

5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 3

G-

1  
2  
3  
4

5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 3

E♭

1  
2  
3  
4

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2

F F♯ F7 D.S. al Fine

1  
2  
3  
4

3 3 3 3 3 3 3 3 1 1 1 3 3 1 1 0

- これは最もユニークなモータウン・フィールでもあり、シャッフルにも似ており、ジャンプ・フィールと呼ぶ人もいます。具体的な曲では、スティーヴィー・ワンダーの「パートタイム・ラヴァー」やホール&オーツの「マン・イーター」などがこのフィールの例でもあります。
- このフィールでは一定のリズムをキープすることが全てと言えます。コードのルートプレイするのが基本なので、非常にシンプルなフィールですが、速いテンポでは曲全体を通してドラムと一定にしっかりと組み合わせるのが非常に難しいと言えます。まずは私と一緒にリズムをプレイしているベース・ドラムを聴いてください。またドラムはハイハットを4分音符でプレイしています。
- このフィールをドラム・マシーンにプログラムして、様々なコード進行でプレイしてみましょう。



The first system shows a melodic line with a fretboard diagram below it: 1 1, 13 3 13, 1 1, 1 3 3 4, 0 1 3 4, 0 1 1 3 1 3, 3 4 5 6 3.

The second system shows a similar melodic line with a fretboard diagram: 4 4 3 4 3, 1 3 1 1 13, 1 1 1 10, 3 2 1.

The third system shows a melodic line with a fretboard diagram: 1 3 3 2 1 1 3 1, 3 5, 4 6 4 4 3 3.

The fourth system shows a melodic line with a fretboard diagram: 1 3 4 5 6 8 6 8, 8 7 5 8, 6.

●これもジェームズ・ジェマーソンのベースラインですが、ジェマーソンと言えば、このフィールも大変良く知られています。様々な難しいリズムや、クロマチック的でメロディックなフレーズなど、彼のベースラインはドラムの上を滑るように動いているかのようです。音数は多いながらも、常にグルーブしています。よって、このようなスタイルをプレイする際は十分に気をつけなければなりません。音数を多くプレイする場合には、ボーカルや曲のメロディと共にプレイすると非常にやりやすいと思います。また、ベースがグルーブに入り込んでいけるようにドラムがシンプルなパターンを維持することも大変重要です。ここでのドラムはそのようなプレイになっています。

●人々はベースの一音一音ではなく、パルスやフィールを感じて聴いているものです。このベースラインは非常に難しいものですので、時間をかけて1小節ずつゆっくりとしたテンポで練習してください。このベースラインをしっかりとプレイできるということが、正確なフィールを生み出す上で非常に重要なことだからです。

## PART 3

### ブルース／ゴスペル・グルーヴ・リズム・コンビネーション

このパートでは、まずクラシックなゴスペルやモダンなゴスペルを紹介していきます。クラシックなゴスペルのフィールは、クラシックなブルースと非常に近い関係にあります。ここではクラシックな変拍子フィールも紹介しています。ゴスペルのシンガーは普通、聖歌隊の中でのタイム・キープに慣れているので、これらのフィールはシンガー達と一緒にプレイするとやりやすいと言えますが、シンガーがいない場合は注意深くカウントしなければなりません。一方、モダンなゴスペルはヒップホップと近い関係にあります。

ブルースのセクションでは、いくつかの異なるクラシック・ブルースのスタイルによってバックグラウンドを知ってもらい、様々なフィールを紹介していきます。また、異なるシャッフルの例についても紹介していきます。これらは、ブルース・プレイヤーのみならず大変重要なものです。

## exercise 18

### ブルース・シャッフル・リズム・コンビネーション

The first system shows a melodic line with a fretboard diagram: 3 2 5 2 5, 3 2 5 2 5.

The second system shows a melodic line with a fretboard diagram: 5 5 3 3 5 5, 3 3 3 3 5 5.

The third system shows a melodic line with a fretboard diagram: 2 5 3 5 2 5, 2 5 3 5 2 5.

The fourth system shows a melodic line with a fretboard diagram: 3 3 5 3 5 5, 3 3 5 3 3 5.



●ブルース・シャッフルは、ブルースというジャンルにおいて基盤となるフィールです。いかなるブルースのギグに行っても、様々なシャッフルのフィールをプレイすることが要求されるはずですし、ボキャブラリーが多いことはベースラインがマンネリ化しないためにも大切なことです。

●このエクササイズでは、5つの異なるシャッフル・フィールを連続してプレイしています。それぞれのフィールをスタンダードな12小節のブルースで1コーラスずつプレイしていますが、ドラムもそれに合わせてリズムック・パターンを変えています。ここではシンプルなものから始め、複雑なものへと進んでいきます。

●譜面では2小節パターンとして書かれていますが、演奏ではそれらをブルースのコード・チェンジに当てはめており、各コーラス最後の小節ではターンアラウンドも付けています。

## exercise 19

### テキサス・ブルース・リズム・コンビネーション

♩ = 84

●このブルース・スタイルは、シカゴ・ブルースにも非常に良く似ており、ギターやドラムと組み合わせられてプレイされます。典型的なアーティストにはTボーン・ウォーカーやライトニン・ホプキンスなどがいます。

●ここで紹介したものは、ジャズ・ブルースのウォーキング・スタイルのベースに非常に良く似ています。

●ドラムが12/8拍子のフィールをプレイし、フィールをつかむためにハイハットを少しだけオープンにしてプレイしています。

## exercise 20

### ジャンプ・ブルース・リズム・コンビネーション

The musical score for Exercise 20 is presented in three systems. Each system includes a bass staff and a guitar staff. The tempo is indicated as quarter note = 224. The key signature is one flat (Bb). The first system is marked with a Bb7 chord. The second system is marked with Eb7 and Bb7 chords. The third system is marked with C-7, F7, and Bb7 chords. The bass line consists of eighth notes, and the guitar line consists of fret numbers (1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9).

●ジャンプ・ブルースは、一定の速いテンポとシンプルなパターンが特徴です。速いテンポのジャズ・ブルースにも似ていますが、ジャズ・ブルースの方がベースラインにもっとインプロヴィゼーションの余地があり、ジャンプ・ブルースの方は繰り返しの部分が多いと言えます。また、ジャンプ・ブルースのサウンドには、ホーン・セクションやリズム・セクションのキメやアクセントが入るのも特徴的です。

●ドラムは、2・4拍のバックビートの付いた速いスウィング・フィールをプレイしています。

## exercise 21

### 12/8拍子デルタ・ブルース・リズム・コンビネーション

●デルタ・ブルースは、ミシシッピのデルタ地帯から旅してきた黒人達によってプレイされていたブルース音楽のオリジナル・タイプと言えます。ボーカルとギターというアコースティック楽器によってプレイされるのが特徴ですが、ハーモニカやピアノも含まれることもあります。12小節のアレンジと、コール&レスポンスという叙情的な構成のボーカルによる反復というスタイルを持っています。典型的なアーティストとしては、ロバート・ジョンソン、チャーリー・パットン、マディ・ウォーターズなどがいます。

●ここではデルタ・ブルースをモダンなインスピレーションによってプレイしています。ハイハット・パターンも、他とは違った感じになっていますし、ベースはベース・ドラムとつながった一定のリズミック・パターンをプレイしています。

## exercise 22

### シカゴ・ブルース・リズム・コンビネーション





# exercise 24

## ロック・ブルース・シャッフル・リズム・コンビネーション

♩ = 106

Drum intro

1  
2  
3  
4

1  
2  
3  
4

1  
2  
3  
4

1  
2  
3  
4

1  
2  
3  
4

1  
2  
3  
4

●このグルーブでは、ベースによるスタッカートのトリプレット・パターンの反復が特徴的です。

●4小節フレーズの最後で、ドラムがベースと共にどのようにアクセントを付けていくかに注目してください。ドラムは2つの異なるフィールもプレイしていますが、2つ目のグルーブでの素晴らしいハイハット・ワークにも注目してください。ドラマーがこのようなリズムをプレイし始めたら、自分のタイム感にも十分注意してください。

●このフィールではプレイし過ぎないこともとても大切です。ベースのパルスは、ムードを作りだしています。プレイするのが難しいようには見えませんが、1曲を通してこのフィールを一定に維持することはかなり難しいと言えます。

音と音との間のスペースが、このベースラインのグルーブを作り出すということも忘れないでください。

# exercise 25

## モダン・ゴスペル・リズム・コンビネーション

♩ = 76

Db Db/F Gb Ab7  $\lceil 3 \rceil$   $\lceil 3 \rceil$  Db Db/F

TAB: 6 3 3 4 6 3 4 4 1 1 4 4 1 1

Gb Ab7  $\lceil 3 \rceil$  Cm7(b5) F7(b9) Bbmin7 Eb7

TAB: 4 2 2 4 6 4 4 3 4 3 1 3 1 3 1 1

Ebmin7 Ab7 Db Fmin7 Bbmin7 Ebmin7 Ab7

TAB: 1 4 4 6 4 4 1 1 6 6 4 4 6 4

TAB: 6 3 5 6 1 1 4 1 4 \* 4 \* 2 4 4 6 4 4 1

$\lceil 3 \rceil$

TAB: 3 3 5 6 3 4 1 2 3 13 12 2 4 6 4 3 \* 1 3 1 11 11 1

TAB: 6 6 4 4 6 4 4 1 11 4 4 6 4

$\lceil 3 \rceil$

TAB: 6 4 4 3 3 4 4 2 2 2 4 4 6 4 6 8 3 3 4 6 \* 1

TAB: 4 4 6 3 1 1 4 1 1 1 1

TAB: 8 6 6 4 4 6 4 4 1 1 6 6 4

- モダンなゴスペルのフィールは、非常に複雑なリズムを持つ傾向があります。それらは、ヒップホップとゴスペルがブレンドしたものでもあります。
- このエクササイズでは、2音を同時にプレイしてコード・サウンドを生み出すダブル・ストップのテクニックが出てきます。私は通常ドラムが非常にシンプルにプレイしている時にこういったちょっと音数の多いベースラインをプレイします。
- ドラムはベース・ドラムで私とのリズム・コンビネーションをうまくつかんでいます。このグルーブはベースにかかっており、ドラムはベースをうまくサポートしています。
- ここでのスロー・テンポはかなり難しく見えますし、グルーブが走りがちになります。よって、実際にベースラインをプレイする前に手を叩いてリズムをよく読みとってみましょう。



# exercise 26

## 9/8拍子ゴスペル・リズム・コンビネーション

♩ = 126

Chords: Db/Eb, B-7, Db/Eb (3rd fret), Ab

TAB: 4 4 4 6 3 4 6 6 6 4 4 6 4

Chords: Ab, Eb7, Ab, Bb7

TAB: 4 3 4 6 3 4 4 5 6 3 3 5 6 6

Chords: Eb7, F7, Bb7

TAB: 4 4 5 6 3 6 3 5 6 6 6 6 3 4 6

Chords: Eb7sus4, Eb7 (3rd fret), Ab, Ab, G, Gb (3rd fret)

TAB: 6 6 6 3 4 6 8 6 6 8 6 10 9 4 1 2 9 9 9 9 8 8 8 7 7

Chords: C-7(b9), F7, F7/A, Bb7, Ab

TAB: 3 4 2 1 3 4 5 6 6 6 4 4

Chords: Gb, Gb/Bb, Db/Eb, Bb7, Eb7

TAB: 2 4 5 6 4 4 6 6 4 4 4 6 6 4 4 8

Chords: Ab, Ab (3rd fret), Eb7

TAB: 4 4 6 6 6 4 4 6 3 4 5 4 4 6 3

- こうした変拍子に慣れていないと、ビートをカウントするのが難しいかもしれません。その場合は、8分音符を3つずつによる3つのグループに分けてみましょう。また、8分音符を4分音符9つのようにカウントしても良いでしょう。
- ドラムがトリプレット・フィールで、ベースラインのフィールに合わせているところに注意してください。ドラムは全てのアクセントを見事にとらえており、ベースはシンバルの良いフィールとしっかり組み合わさっています。
- ここでは4弦ベースの弦を張り替え、チューニングをB-E-A-Dに下げてください。

# exercise 27

## ゴスペル・リバイバル・リズム・コンビネーション

$\text{♩} = 96$

Bass staff:  $\text{♩} = 96$ , key signature of two flats, 4/4 time.
   
 TAB: 4 3 6 3 | 4 4 3 6 6 3 3 | 4 4 5 5 6 6 6 6

Bass staff:  $\text{♩} = 96$ , key signature of two flats, 4/4 time.
   
 TAB: 6 3 6 3 3 | 4 4 3 6 6 3 | 4 4 5 5 6 .5 6 \* 4 4 4

Bass staff:  $\text{♩} = 96$ , key signature of two flats, 4/4 time.
   
 TAB: 4 4 4 4 4 4 | 4 4 3 3 1 0 | 0 0 0 0 | 1 3 3 1

Bass staff:  $\text{♩} = 96$ , key signature of two flats, 4/4 time.
   
 TAB: 1 3 4 5 6 | 4 6 4 4 6 4 | 6

Bass staff:  $\text{♩} = 96$ , key signature of two flats, 4/4 time.
   
 TAB: 4 3 6 3 3 | 4 4 3 6 3 3 | 4 4 4 5 5 5 | 6 6 6 3 6 6

Bass staff:  $\text{♩} = 96$ , key signature of two flats, 4/4 time.
   
 TAB: 4 4 3 | 3 3 3 3 3 3 | 1 5 3 3 1 | 1 1 1 3 1 1 3

Bass staff:  $\text{♩} = 96$ , key signature of two flats, 4/4 time.
   
 TAB: 4 4 4 4 4 | 4 4 4 5 3 2 | 2 2 2 2 | 3 3 1

Bass staff:  $\text{♩} = 96$ , key signature of two flats, 4/4 time.
   
 TAB: 1 3 4 5 6 | 6 4 6 4 4 6 4 | 6 \*

Bass staff:  $\text{♩} = 96$ , key signature of two flats, 4/4 time.
   
 TAB: 4 3 6 3 3 | 4 4 3 6 3 3 | 4 4 5 5 5 | 6 6 6 6 3

Bass staff:  $\text{♩} = 96$ , key signature of two flats, 4/4 time.
   
 TAB: 4 3 6 6 3 | 4 4 3 6 3 3 | 4 4 5 5 6 6 6 6 3

Bass staff:  $\text{♩} = 96$ , key signature of two flats, 4/4 time.
   
 TAB: 4 0 8 8 7 6 6 | 6 4 3 1 0 | 0 0 0 0 | 1 3 3 1

Bass staff:  $\text{♩} = 96$ , key signature of two flats, 4/4 time.
   
 TAB: 1 3 4 5 6 | 4 4 6 4 4 6 4 | 6

Bass staff:  $\text{♩} = 96$ , key signature of two flats, 4/4 time.
   
 TAB: 4 3 6 3 3 | 4 4 3 6 3 3 | 4 4 5 5 5 | 6 6 6 6 \*

- このベースラインはカット・タイム、つまり非常に速いテンポでできています。よって、2分音符をパルスとして感じて良いです。ドラムは、ベースラインのアクセントをうまくつかんでいます。
- このフィールはジャンプ・スウィング・ジャズのフィールとも非常に良く似ています。このスタイルでは、1曲を通してたくさんの音をプレイするので、ベースラインが常にスムーズでバラバラにならないように注意してください。
- ここでは4弦ベースの弦を張り替え、チューニングをB-E-A-Dに下げてプレイしています。

## exercise 28

### 6/8拍子ゴスペル・リズム・コンビネーション

$\text{♩} = 110$



●9/8拍子のフィールと非常に良く似ていますが、これは非常にトラディショナルなゴスペル・フィールと言えます。ベースラインには16分音符のトリプレットが組み込まれているので、譜面を読み取るのは難しいかもしれません。

●ドラムのハイハットとスネアの位置をよく聴いてください。ドラムは各小節の4拍目で強力なスネアをヒットさせており、ベースはこれに合わせています。また、ドラムは1拍目でベース・ドラムをプレイしているため、6/8拍子のパルスが感じやすくなっています。

## PART 4 ラテン／レゲエ・グルーヴ・リズム・コンビネーション

ラテン・セクションでは、3つの異なるフィールを紹介します。それらのフィールは、ベースラインのリズムのわずかなバリエーションによって区別されており、同じラインでリズムをキープしながらも、音やコードを変えていることに気付くと思います。多くのベースラインは1拍目がわかりにくかったり、非常に速いテンポでプレイされたりするので、このラテン・フィールは特に若いベーシスト達にとってマスターするのが難しいものと言えます。

レゲエのベースラインでは、異なるコード進行やテンポでベースラインを作りました。レゲエ・ミュージックのカギは、スペースの効果的な使い方と、しっかりとした均一なサウンドにあると言えます。

## exercise 29 ベーシック・トウンバオ／ソング・リズム・コンビネーション

●ベーシックなソンゴ・ベース・パターンです。このスタイルは、ベースがメロディックな面よりもリズム楽器としての役割をプレイするキューバ音楽の一つです。ソンゴの典型的なベースは、どの小節においても1拍目ごとには落ち着かず、各小節の前の4拍目や4拍目ウラというのが一般的です。このスタイルになじみのないベーシストは、これをつかむのが非常に難しいと思います。良い練習方法としては、クラベのリズム(2:3でも3:2でも)をドラム・マシーンにプログラムするというものがあります。

●ドラムはベースラインをよくサポートしていますので、特にベース・ドラムをよく聴いてみてください。2拍目ウラと4拍目でプレイしており、これがベースのリズムとかみ合っています。

●このスタイルは、ロス・バン・バンやロス・ラティーノス、イラケレといったバンドやそれらのパーカッショニスト達によって発展していています。

## exercise 30

### グアラチャ・リズム・コンビネーション

The musical score for Exercise 30 is divided into four systems, each with a bass line and a guitar line. The key signature is one flat (Bb) and the time signature is 4/4. The first system has chords A-7, Bm7(b9), and E7(b9). The second system has chords A-7, D7, G-7, C7, and F6. The third system has chords F#m7(b9), B7(b9), Em7(b9), and A7(b9). The fourth system has chords Dm7(b9), Bm7(b9), E7(b9), A-6, and Bb7.

●ラテン・ミュージックのリズムの多くの起源はスペインにあります。キューバで大きく発展したと言えます。それはキューバにおけるストリート・ミュージックの初期の形態だったのです。

●ここでは一定のリズムと、ベースが各小節の1拍目をどのようにプレイしているかに注目してください。

●グアラチャのリズムはソンゴのフィールとは区別され、今日ではこのフィールをサルサと呼ぶことが多いです。

●ドラムはわずかに異なるベース・ドラム・パターンをプレイしていますが、ここでもベースとはしっかり組み合わさっています。ベース・ドラムも1拍目はプレイしていませんが、ソンゴとの大きな違いはベース・パターンにあると言えます。

## exercise 31

### チャランガ・リズム・コンビネーション

Exercise 31 is a piece in 2/4 time with a tempo of 88. The key signature has one sharp (F#). The score consists of four systems of music, each with a bass staff and a guitar staff. The chords and fret numbers are as follows:

- System 1: Chords A-7, Bm7(b9), E7(b9). Fret numbers: 7 9 9 7 7 9 7 8 8 9 7 9 7.
- System 2: Chords A-7, D7, G-7, C7, F6. Fret numbers: 7 5 5 7 5 5 3 3 3 3 3 3 3.
- System 3: Chords F#m7(b9), B7(b9), E7(b9), A7(b9). Fret numbers: 4 4 2 5 4 4 6 2 3 3 2 2 2 2.
- System 4: Chords Dm7(b9), Bm7(b9), E7(b9), A-6, Bb7. Fret numbers: 5 6 3 5 2 2 0 5 7 7 7 8 8 8.

- これは40年代に人気のあったキューバのダンス・ミュージックのスタイルです。通常はバイオリンやフルートといった楽器で演奏されます。
- 2小節のリズム・パターンになっており、曲を通して同じ2小節リズムを維持することが重要になります。
- このスタイルでは各小節で1拍目をプレイしています。ベースのリズムがこのスタイルを特徴づけ、ユニークなものにしているとも言えます。ドラムはここでもベース・ドラムのパターンを変化させてベースのリズムにうまく合わせています。

## exercise 32

### ベーシック・レゲエ・リズム・コンビネーション

Exercise 32 is a piece in 2/4 time with a tempo of 160. The key signature has three sharps (F#, C#, G#). The score consists of four systems of music, each with a bass staff and a guitar staff. The chords and fret numbers are as follows:

- System 1: Chords A, D, A, D. Fret numbers: 0 5 5 5 5 5 5 5 5 5 7 7 0 5 5 5 7 7.
- System 2: Chords A, D, A, D. Fret numbers: 0 5 5 5 5 5 5 5 5 0 5 5 5 5 5 6.
- System 3: Chords A, D, A, D. Fret numbers: 7 5 5 5 5 5 5 5 5 5 7 7 0 5 5 5 7 7.
- System 4: Chords A, D, A. Fret numbers: 0 5 5 5 5 5 5 5 5 0 5 5 5 5 7.

- レゲエのフィールは、“スカンク”と呼ばれる2・4拍目のギター・プレイによっても特徴づけられます。ベース・パートは、一般的にスペースを効果的に使った8分や4分音符や、それらの微妙なリズム・バリエーションによってできています。よって、音の長さやサウンド、そしてタイム感には十分注意しなくてはなりません。
- レゲエ・ミュージックでは、ベースは非常にディープなサウンドなのが普通ですし、ジャズなどのスウィング・ミュージックをも連想させます。レゲエはジャマイカで発展し、スカやレゲエのエレクトロニック・フォームであるロック・ステディやダブなどのスタイルにも発展していきました。
- ドラムが各小節の3拍目をヒットさせるのも特徴的なサウンドと言えますし、これは“ワン・ドロップ”としても知られています。ここではドラムは、3拍目でベース・ドラムとクロス・スティックを繰り出しています。



## exercise 33

### アップ・テンポ・レゲエ・リズム・コンビネーション

Tempo: ♩ = 164

Chords: G, E-, C, D7, E-, C, D7, A-, D7

Drum notation: 1, 2, 3, 4

Endings: D.C., Fine

- コード・チェンジが多く、テンポも少し速い以外は、前のエクササイズに非常によく似たレゲエ・グルーブです。
- 多くの8分音符が含まれている点がレゲエのフィールを生み出し、特徴的なサウンドにしているということがわかんと思います。
- 一般的には、テンポが上がるに連れてドラムはシンプルなパターンをプレイします。ちなみにここでは、ドラムは3拍目でスネアを叩いています。
- これは“2”を感じる速い4/4拍子であるということを覚えてください。

## exercise 34

### シンコペーション付きレゲエ・リズム・コンビネーション

Tempo: ♩ = 196

Chords: F#-, A, D, E7, D, E7, C#, D, E7, F#-, A, D, E7, A

Drum notation: 1, 2, 3, 4

- これはレゲエ・グルーブの速い例です。Aセクションでは、最初の2拍を空白にしていますが、Bセクションではどのように異なるプレイをしているかに注目してください。リズムの使い方によって、2つのセクションを異なるものになっているのです。
- これに対してドラムはグルーブを変えていないということにも注目してください。ドラムは3拍目でクロス・スティックでプレイし続けていますが、ベースは変化させています。
- テンポが上がると、そのアプローチはほとんどスカのフィールのようになります。

## PART 5

### ヒップホップ／ドラムベース・リズム・コンビネーション

ヒップホップのセクションでは、微妙なリズムのバリエーションによって様々なグルーヴを紹介していきます。難しい点は、一定したスウィングのレベルを維持することです。音の長さも、ベースラインのフィールに大きな影響を与えます。

またこのパートではドラムベースも3つ紹介します。そのグルーヴは、ドラムの上で滑るように動いていく感じです。ここでもムードを作り出すことが大切ですし、こういったスタイルではインプロヴィゼーションはあまり必要ありません。

#### exercise 35

##### ベーシック・ヒップホップ・リズム・コンビネーション

Exercise 35 consists of two systems of musical notation. The first system is in 4/4 time with a tempo of 90. It features a bass line in the bass clef and a drum line in the treble clef. The bass line starts with a C- chord and moves to Ab/C. The drum line shows a pattern of eighth notes and rests. The second system continues the bass line with Db/Bb and Bb chords. The drum line continues with a similar pattern of eighth notes and rests.

●このベースラインは、ベーシックなヒップホップ・フィールです。全体のベースラインを通して、スウィングのレベルを維持することに焦点を当てる必要がありますので、特にドラムによるスウィングのレベルを聴いてください。

●ここではベースはハイハットに焦点を当てており、ベース・ドラムはグルーヴ上でストレートにプレイされています。

●ベースは全ての小節で同じリズムをプレイしていますが、コード・チェンジに合わせて音を適応させています。ここでは、ベースラインで一定のムードを作り出しているのです。

#### exercise 36

##### 2・4拍抜きヒップホップ・リズム・コンビネーション

Exercise 36 consists of two systems of musical notation. The first system is in 4/4 time with a tempo of 84. It features a bass line in the bass clef and a drum line in the treble clef. The bass line starts with an A-7 chord and moves to G6 and FMA7. The drum line shows a pattern of eighth notes and rests. The second system continues the bass line with A-7, G6, and FMA7 chords. The drum line continues with a similar pattern of eighth notes and rests.

●ヒップホップのサウンドは、一定のリズムと非常に微妙なバリエーションが特徴的です。このエクササイズでは、2・4拍目をスネアのために空けています。通常はこれによってベースのプレイ自体も非常に力強いものになります。

●3拍目、ドラムはベース・ドラムで8分音符と16分音符2つをプレイしていますが、ベースは8分音符2つです。しかしベース・ドラムのサウンドはベースがプレイしているように聞こえ、ベースにもスウィング感を与えているのです。

●スネアに反応しながら、それに合わせたり、スネアの間をプレイしたりして練習してみましょう。

## exercise 37

### 2小節パターン・ヒップホップ・リズム・コンビネーション

●このグルーヴは、2小節のリズム・パターンを元にしています。奇数の小節は、ほとんどリズム的には独立しており、その前でリズムを一旦解き放つようなポイントがあります。これによって、ドラムはベース・ドラムを使ってよりアクティブにプレイする余地を与えています。

●これは2小節パターンではありますが、8小節のフレーズとして組み立てているのがおわかりかと思います。それによって、ベースラインでインプロヴァイズする余地やスペースを与えてくれています。

## exercise 38

### 2パート・ヒップホップ・リズム・コンビネーション1

●このグルーヴは、2小節のリズム・パターンを元にしています。奇数の小節は、ほとんどリズム的には独立しており、その前でリズムを一旦解き放つようなポイントがあります。これによって、ドラムはベース・ドラムを使ってよりアクティブにプレイする余地を与えています。

●これは2小節パターンではありますが、8小節のフレーズとして組み立てているのがおわかりかと思います。それによって、ベースラインでインプロヴァイズする余地やスペースを与えてくれています。



●この最初のバージョンでは、スペースをたくさん空けていますので、グルーブ自体にもスペースがあり、ドラムも音数を多めにプレイしています。ドラムは前半後半のABセクションで異なるフィールをプレイしており、ベースと共にプレイされるベース・ドラムがカギにもなっています。

●ベースラインは2つの8小節フレーズからできてますが、非常にゆっくりとしたテンポでできるだけ何度も繰り返してプレイしてみてください。それによって持続力が付くはずですよ。

●このスウィング・フィールは、スローなテンポだと一層強調されてきます。テンポを上げるとスウィング・フィールもストレートな感じになっていき、ほとんどストレートな16分音符のフィールのようになってくるはずですよ。

## exercise 39

### 2パート・ヒップホップ・リズム・コンビネーション2

## exercise 40

### 2パート・ヒップホップ・リズム・コンビネーション3

1  
2  
3  
4

3 3 1 4 5 6 3 6 1 1 2 2 4

2 4 4

1  
2  
3  
4

3 3 1 4 5 3 6 6 3 6 1 1 2 2 4

2 4 4

1  
2  
3  
4

3 3 1 4 5 3 6 6 3 6 1 1 2 3

2 4 4

●2つ目のこのバージョンは、ベーシックなテーマやベースラインをどのようにインプロヴァイズするかをお見せしたものです。リズムや音もさらに加えています。最初のバージョンと同じ基本グルーブをキープしています。ただし、音を加え過ぎないことが大切ですし、ここでもドラムのためのスペースを設けておくことを忘れないでください。

●ドラムはシンプルなストレート8分音符のパターンをハイハットでプレイしています。ベースはベース・ドラムのスウィング感をとらえており、ドラムもベースのアクセントをつかんでいます。ドラムは後半で全体のグルーブをストレートなものにしていきます。ベースの音数が増えれば、ドラムはシンプルになっていくわけです。

$\text{♩} = 84$   
C7(#9)

1  
2  
3  
4

3 3 5 1 3 1 1 2 3 2 3 1 3 1 1 2 1 2

1 3 1 3 3

1  
2  
3  
4

3 3 0 1 3 1 1 2 3 2 3 1 3 1 3 0 1 2 3 3

1 3 1 3 3

1  
2  
3  
4

3 3 0 1 3 1 1 2 3 2 3 1 3 1 1 2 1 2

1 3 1 3 3

1  
2  
3  
4

3 2 3 4 5 1 3 1 1 2 3 1 3 3 1 3 2 1 2 3 4 0

3 3 3 3 3

Ab7

1  
2  
3  
4

1 3 1 3 1 4 5 4 3 4 4 5 6 3 6 1 1 1 2 2 4

2 4 2 4

1  
2  
3  
4

3 1 3 1 4 5 4 3 4 4 5 6 3 6 1 1 1 2 2 4

2 4 2 4

## exercise 41

### ドラムベース・リズム・コンビネーション1

●ドラムベースのフィールは、テクノ・ミュージックと関連しています。テクノは一般的にシンセ・ベースやドラム・マシンによって演奏されます。ドラムベースは普通、160BPMかそれ以上という非常に速いテンポで演奏されます。

●一般的には外れることのない一定のベース・パターンが特徴的で、オリジナルのパターンとリズム的なバリエーションが少しといった程度で作られています。何度も何度もプレイし、ムードを生み出すことが大切です。ある意味でレゲエのダブル・タイム・ドラム・フィールと考えることもできると思います。ドラムベースはドラマーに要求される部分が多いので、実際にプレイしているミュージシャンはそれほど多くはありません。

●このベース・パターンはシンプルですし、ベースラインの回りでドラムは様々な種類の細かなリズムをプレイしています。ドラムのハイハットとスネアを聴くといろいろな動きがわかりますが、ベースにもしっかり耳を傾けてください。この音楽スタイルでは、ドラムの上にベースが横たわっているような感じですし、ベースラインの音数が増えればドラムのプレイもリズムミックスな複雑さが少なくなってきます。

●もう一つ、ドラムベース・サウンドでは5・6弦の低い音を良く使います。ここでは4弦ベースの弦を張り替え、チューニングをB-E-A-Dに下げてプレイしています。

●3つ目のバージョンでは、さらに多くのリズムやメロディックな要素を加えています。ここでもオリジナルのグルーブと同じレイヴァーをキープしていますが、音楽的な方法で広げているのです。ヒップホップ・フィールで音数が増えると、スウィングのレベルを維持するのはとても難しいと言えます。恐らく左手も疲れてくると思いますので、ゆっくりとしたテンポで練習し、間違わないようになるまで何回もプレイしてみてください。

●これは、ベースラインの音数が非常に多くてもグルーブは力強いという一つの良い例です。前半後半の2つのセクションでもベースのリズムは一定ですし、ドラムはベースの音数が増えなくてもほとんどベーシックなフィールを自然にプレイしており、ベースに引っ張られてはいません。



## exercise 42

### ドラムベース・リズム・コンビネーション2

- 2つ目のバージョンは、リズム的に少し複雑になっています。ベースの長めの音に対する良い感じのハイハット・ワークやスネアに注意してみてください。このグルーヴでは、ベースとドラムは少々コール&レスポンスも行っています。
- ここでは4弦ベースの弦を張り替え、チューニングをB-E-A-Dに下げてプレイしています。

## exercise 43

### ドラムベース・リズム・コンビネーション3

- 3つ目のバージョンでは、ベースは非常に複雑なリズム・パターンをプレイしており、ベースラインのハーモニーも一層複雑になっています。ドラムは一般的に、このような音数の多いベースラインの後ろではシンプルなパターンをプレイしますし、ここでも力強いタイム感を生み出して私をサポートしています。
- これらのグルーヴは特に、最初はゆっくりとしたテンポで練習してください。テンポが上がると、ベースのグルーヴがドラム・ビートの上に浮いているような感じがわかるとと思います。
- ここでは4弦ベースの弦を張り替え、チューニングをB-E-A-Dに下げてプレイしています。

## デモ演奏について

### オープニング曲 "Meltdown" by Tomo Fujita

音数が多いながら、ベースラインとしての構造がしっかりしたサンプルが欲しいと思い、この曲をDVDのオープニング曲として選びました。曲の中の各セクションで一定のアイデアとリズムをプレイしていますので、私がどのように区別しているかを聴き取ってみてください。そうした区別によってリズム的な深みが加えられ、曲を興味深いものにしてくれます。トリオでプレイする場合は、少しスペースを埋めるのが私の好みでもあります。ギターがソロをプレイすると、ベースとドラムだけという状況になりますので、自分のベースラインにもっとインプロヴィゼーションを加え、リズム・セクションがギターをサポートできるようにしています。

### エンディング曲 "Footprints"

このパフォーマンスではQトロンのエフェクターを使用しています。ここでは、メロディと共にハーモニーの中でダブル・ストップを使っています。ドラムのプレイに対してベースがフレー징する際に、どのように曲のタイム感を感じてプレイしているかに注目してください。

## おわりに

このDVDに収録したエクササイズを通して、楽しんで練習していただけたかと思えます。一度だけでなく、今後もこのDVDを見続け、これらのベースラインをマスターして欲しいと思います。一つ重要なことは、自分の練習時間をオーガナイズすることです。まずは、練習に入る前に何をするかを決め、その日にフォーカスすべきことをはっきりさせるのです。小さなゴールを設定し、それを達成したら次の目標に向かっていきます。このDVDには難しいエクササイズも多く含まれていますので、マスターするのに時間が掛かっても落胆しないでください。逆に言えば、プレイするのが簡単な楽器というのは、長年の練習の成果も報いもないと言えます。良いミュージシャンになるには、一生をかけなければですし、私自身今も取り組み続けています。これは楽しいことであるとも思いますし、そのことをどうか忘れないでください。

### Special thanks

I would like to thank Rittor Music for the opportunity to continue this DVD series. A special thanks to my wife Sandra for her help with the text and everything else. My beautiful daughter Victoria who continues to crush me on the Playstation. Anton Jungherr for the use of the funky Q Tron. Sam Kawa, Hiroshi Noguchi, Tomo Fujita and Larry Finn for the great production, playing and support. Dean Markley Strings. Fender Jazz Basses. Rich Appleman and Berklee College of Music. This DVD is dedicated to the memory of my brother Jerry.

### Endorsements:

Dean Markley Strings

SWR

Fender Basses

Books, original music, links and Bass related information are available on my website at <http://www.anthonyvitti.com>

e-mail me at: [anthonyvitti@anthonyvitti.com](mailto:anthonyvitti@anthonyvitti.com)